

# ドイツ特許無効化のための 無効訴訟



2016年11月

## 内容

- 概要
- 統計
- 第一審訴訟
- 第二審訴訟
- クレーム補正のオプション

## 内容

- 概要
- 統計
- 第一審訴訟
- 第二審訴訟
- クレーム補正のオプション

概要

## ドイツ特許に対する無効訴訟

誰が:

何人も(但し、特許権者を除く)

いつ:

- 異議申立期間の終了
- 異議申立手続の終了

の後いつでも

(特許の最大権利期間終了後も可能)

概要

## ドイツ特許に対する無効訴訟

### 理由:

- 特許性のない主題(特許を受けることができない主題、新規性欠如、進歩性欠如)
- 不十分な開示
- 冒認
- 不当な拡大
- (異議申立手続において行われたクレーム補正の結果としての)付与された特許範囲からの保護範囲の拡張

概要

## ドイツ特許に対する無効訴訟

### 方法:

- 特許(国内ドイツ特許又は付与済EP特許のドイツ移行分のどちらか)の取消を求めて、特許権者を相手取り、訴状作成と訴訟提起
- 裁判所費用の納付

裁判所費用は「係争価額」による

- 一般的な「係争価額」:

500,000ユーロ～ 2,000,000ユーロ (6千万円～2億円)

- 対応する裁判所費用(勝訴の場合は返還される):

15,912ユーロ～40,212ユーロ (180万円～460万円)

## 内容

- 概要
- 統計
- 第一審訴訟
- 第二審訴訟
- クレーム補正のオプション

統計

## いくつかの数字

年間に提起される無効訴訟：約220件（過去長年にわたり極めて安定）  
（年間に提起される侵害訴訟約1250件と比べ少ない）

連邦特許裁判所の判決：約80%が取消又は限定  
約20%が訴え却下

控訴審判決： 60%が連邦特許裁判所の判決確認  
40%が連邦特許裁判所の判決を修正



## 内容

- 概要
- 統計
- 第一審訴訟
- 第二審訴訟
- クレーム補正のオプション

## 第一審

### 総論

2009年に改正手続規則が発効。以下、新たな手続：

- 「前倒し(Front loaded)」手続
- 連邦特許裁判所の予備見解

裁判所は、提出が遅すぎる補正クレームを却下してもよい

連邦特許裁判所及び連邦司法裁判所は、依然として、「遅すぎる」とは何かを理解するために十分な判決を構築する過程にある

- 一般原則： 補正クレームは、予備見解に対する応答よりも前に提出されなければならない
- 一般目標： 訴訟は、18ヶ月以内に終結すべき（現在のところ依然として約24ヶ月）

第一審

